

フォローアップ研修について

■ 位置付け

- 有明の丘研修受講後、一定期間が経過したのちに集い、受講者同士で直接的な交流を深める「直接交流の場」として平成26年度にフォローアップ研修を位置付けた。
- 実施にあたっては、「近年発生した災害により被害・影響を受けた被災地」で、「被災自治体や被災者を交え」て実施することを基本としている。
- 実施すべき主な内容は、次の2点を中心として整理している。
 - 最近の防災に関する施策や対応事例
 - 研究成果等について、講演、講義、発表を通じて最先端の知識を得る

■ 目的

- 有明の丘研修修了者のフォローアップとして、下記を目的に実施している。
 - 災害対応に従事した被災自治体の職員や現場で対応にあたった方からの講話とグループワークによる「災害対応の実態と教訓(被災後に取り組まれている防災に関する施策を含む)」の把握
 - 災害対応に必要な知識の向上の機会の提供
 - 参加者間の人的ネットワークの形成

■ 対象者

- 平成26年度以降の有明の丘研修修了者(「防災基礎」コースの修了者は除く)

■ 昨年度までのプログラム概要

- 2日間の工程で1日目にバスで被災地に行ったのち被災地付近の会場で、被災者であり現場で災害対応を行った住民或いは行政から話を聞き、2日目は1日目の話を踏まえて、自らの対策に活かすためのワークを行うことが基本となっていた。

■ 今年度のプログラム概要

- 今年度は、感染症対策かつ受講者拡大のため、半日程度のオンライン研修で災害対応を行った行政の方に話を聞き、自らの対策に活かすためのワークを行う。今年度のプログラムは別紙1参照。

■ 昨年度までのフォローアップ研修の開催地等

年度	開催地	実施日	定員	応募者	受講者	修了者
平成27年度	長野県神城断層地震(平成26年)の被災地である 長野県白馬村	平成28年 3月17日(木)、18日(金)	50人	29人	28人	27人
平成28年度	平成26年広島豪雨災害の被災地である 広島県広島市	平成29年 3月7日(火)、8日(水)	40人	37人	35人	34人
平成30年度	平成28年熊本地震の被災地である 熊本県益城町	平成30年 5月21日(月)、22日(火)	40人	41人	40人	40人
令和元年度	平成27年関東・東北豪雨の被災地である 茨城県常総市	令和元年 8月5日(月)、6日(火)	60人	57人	50人	50人

※カリキュラムの詳細は、別紙2参照。

● 平成29年度の改善

- 平成27年度、平成28年度は、年度末に実施していたが、年度末は受講者の繁忙期と重なり参加の時間が確保しづらいため、平成29年度からは、次年度のフォローアップ研修を企画し、次年度に前年度の企画に沿って実施することとなった。(そのため、平成29年度は平成30年度のフォローアップ研修の企画のみ)

● 平成30年度の改善

- 1日目からバスでの移動が組み込まれていることでバスの乗車可能人数が定員の上限になっていた。対象者が年々増えるため、より多くの方が参加できるように、バスは使わずに研修会場に直接集合する形に変更した。
- 1日目の移動に時間がかかりプログラムにゆとりがなく、災害対応経験者の講義等に十分な時間が確保できていなかった。1日目の午後の最初から講義を実施することでゆとりをもった適正な研修時間を確保した。
- 時間の無い中で1日目にも被災地視察を組み込んでいたため、視察の時間が十分に確保できていなかった。2日目の午後を被災地の視察にあてることで、被災地を見たい方が、じっくりと視察できるようにした。

内閣府防災スペシャリスト養成研修

令和2年度「フォローアップ研修」実施計画案

2020年12月

1. 目的

本研修は、防災スペシャリスト養成研修（「防災基礎」コースの受講者を除く）修了者のフォローアップとして実施するものである。災害対応に従事した被災自治体の職員や現場で対応にあたった方からの講話とグループワークによる「災害対応の実態と教訓（被災後に取り組みされている防災に関する施策を含む）」の把握、災害対応に必要な知識の向上の機会を提供するとともに、参加者間の人的ネットワークの形成を目的とする。

2. 実施概要

(1) 対象者

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）の修了者のうち平成25年度「防災スペシャリスト養成研修」の修了者および平成26～30年度の「防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）」のうち「防災基礎コース」の修了者を除く、一定程度の防災活動を遂行できる能力（知識、技能、態度）を身につけている者で、「人的ネットワーク資格」^{※1}を有しているものを対象とする。

^{※1} 「人的ネットワーク参加資格を有するもの」は、防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）のうち、「個別対策コース」及び「総合監理コース」の修了者とする、こととされてきた。

(2) 日時

令和3年2月8日（月）13:00～17:30

(3) 実施方法

ZOOMを使ったリアルタイム形式のオンライン研修

(4) 主な内容（次の（ア）～（イ）を主な内容とする）

（ア）〈講和〉災害対応の実態と教訓（その後の対策を含む）

被災地に生じた被害や影響の概要と、災害を踏まえて被災地で取り組まれている防災対策について学ぶ。被災地において対応した行政職員等の対応従事者から実施した活動・体験について聞き取り、対応上のポイント、教訓について学ぶ。

（イ）〈グループ討議〉災害から得られた知見・教訓の抽出・整理

体験談の中から確認された災害対応上の知見やノウハウ、教訓などを、参加者同士のグループによる討議を通じて抽出・整理するとともに、その教訓などを防災対策に活かすための方策を検討・整理する。

(5) 募集定員 40～60名（最大60名程度）

3. スケジュールの概要

時間		内容	備考
12:30～		準備 ※参加者は、12:30から入室可	
13:00～13:10	10	オリエンテーション	
13:10～13:15	5	主旨説明	
13:15～13:45	30	参加者による自己紹介	
13:45～14:30	45	○（講和）災害対応の実態と教訓 （大分県日田市 総務部 防災・危機管理課 主幹 平川 淳史講師）	
14:30～14:50	20	○質疑応答、意見交換	
14:50～15:00	10	休憩	
15:00～15:45	45	○（講和）災害対応の実態と教訓 （岩手県宮古市 危機管理監 芳賀 直樹講師）	
15:45～16:05	20	○質疑応答、意見交換	
16:05～16:15	10	○グループワークの進め方（説明）	
16:15～16:50	35	○グループ討議・教訓整理 （ブレイクアウトルームで8班程度）	
16:50～17:20	30	○グループでの検討結果の発表・まとめ	
17:20～17:30	10	○挨拶・事務案内・写真撮影	
17:30		フォローアップ研修終了	

- 受講者は、ZOOM で設定した場所に直接集合するものとする。（＝多くの人の参加を可能とする）
- 講和は、実際に災害対策本部等で対応した方から、対応の実態を説明していただく。また、講和後に登壇した方と受講者との意見交換を行う。
- 講和後は、受講者自身が効果を通じて得た教訓をまとめる。
- 意見交換・グループ討議を通じて、講師と受講者間、あるいは、受講者相互の人的ネットワークづくりを行う。

以 上

昨年度までのフォローアップ研修のカリキュラム等

資料1-2 別紙2

年度ごとの実施日、カリキュラム、受講者数等は下記の通りである。

年度	平成27年度				平成28年度				平成30年度				令和元年度							
会場	長野県白馬村				広島県広島市				熊本県熊本市、益城町				茨城県常総市							
実施日	平成28年3月17日(木)・3月18日(金)				平成29年3月7日(火)・3月8日(水)				平成30年5月21日(月)・5月22日(火)				令和元年8月5日(月)・8月6日(火)							
1 日 目	11:30~		長野駅集合⇒バス移動		11:20~		広島駅集合⇒バス移動		11:00~		熊本駅集合⇒バス移動 ⇒熊本県庁⇒バス移動		常総市役所集合							
	会場:白馬商工会 (大会議室)				(バス移動中)				(バス移動中)				会場:常総市役所 (2階大会議室)							
	1	13:00 ~13:45	開講式 事前説明	長野県、 事務局	2日目の災害対応ワーク ショップで必要となる災害事 例の活用手法を説明する。	1	11:30 ~12:15	開講挨拶 事例説明	広島市、 事務局	開講の挨拶、参加者の自己 紹介に続き、平成26年の広 島豪雨土砂災害の概要を 説明する。	1	11:30 ~11:45	開講挨拶 事例説明	事務局	開講の挨拶、参加者の自己 紹介に続き、平成28年熊本 地震の概要を説明する。	1	13:00 ~13:20	オリエンテー ション 開講式	常総市、 事務局	・オリエンテーショ ン ・開講挨拶 ・常総市挨拶
	2	14:00 ~14:45	最新の 災害事例	白馬村、 地元住民等	平成26年度に発生した長野 県神城断層地震について、 現場対応者から体験談を聞 き、参加者からの質疑応答 や意見交換を行うことによ り、実際の現場での災害対 応の実態について理解を深 める。	災害現場				対応現場				2	13:20 ~14:45	平成27年関 東・東北豪雨 の災害概要と 教訓・取組事 項	常総市	常総市に生じた被害や影響 の概要と、災害を踏まえて 被災地で取り組まれている 防災対策について学ぶ		
	会場:広島市安佐南区民文化センター (3階 会議室大)					会場:益城町役場 仮設庁舎 (別館2階 大会議室)				会場:常総市役所 (庁舎内災害対応現場)										
	3	15:00 ~15:45				災害事例 の聞き取り 1	自主防災会	平成26年に発生した広島豪 雨土砂災害について、現場 対応者から体験談を聞き、 参加者からの質疑応答や意 見交換を行うことにより、実 際の現場での災害対応の 実態について理解を深め る。	3	14:30 ~15:15	多様な避難 者への対応	山都町、 益城町	市・県の災害対策本部で避 難者への対応を行った自治 体職員、指定避難所や福祉 避難所へ対応した方、車中 避難者等へ対応した方から 体験談を聞く。	3	14:45 ~15:15	1.被災庁舎及 び災害対応現 場 2.水没文章の 復旧説明	常総市	実際に被災した庁舎や災害 対応を行った現場を見学す る。		
	4	16:00 ~16:45	災害事例 の聞き取り 2	自治会	5	16:15 ~17:00	多様な避難 者への対応	益城町	4	15:15 ~16:45	災害廃棄物の 衝撃	常総市		災害廃棄物の対応など、実 際に災害対応を行った自治 体職員から、体験談を聞く。						
5	17:00 ~18:15	資料整理	受講者	2日目の災害対応ワーク ショップで必要となる災害報 告の資料を整理する。	6	17:00 ~17:30	災害事例 の聞き取り 3	広島市	5	16:00 ~16:30	県による避 難者への対 応避難者対 応	熊本県	5	16:55 ~17:30	質疑応答 意見交換	常総市	意見交換・質疑応答を通じ て、対応実態についての理 解を深める。			
2 日 目	会場:長野県自治会館 (第1特別会議室)				会場:合人社ウェンデイひとまちプラザ (北棟5階研修室C)				会場:熊本市国際交流会館				会場:常総市役所 (2階大会議室)							
	1	09:00 ~09:45	防災に関 する最近 の動向	有識者	1日目に紹介された災害事 例に関する防災・減災研究 の成果について学ぶ。	1	09:30 ~10:15	防災に関 する最近 の動向	広島県自主 防災アドバ イザー	1日目に紹介された災害事 例に関する防災・減災のポ イント、成果について学ぶ	1	09:00 ~10:00	防災に関す る最近の動 向	有識者	熊本地震対応から得られた 教訓をもとに防災・減災のポ イント、成果を学ぶ。	1	09:00 ~10:00	(説明) 対応実態の聞 き取り	常総市防災 士連絡協議 会	災害を経験された地域の方 から、実施した活動や体験 を聞き、対応上のポイントや 教訓を学ぶ。
	2	10:00 ~10:45	災害対応 ワーク ショップ	事務局	1日目に紹介された防災業 務の取り組み事例を基に、 時系列整理と課題を抽出 し、効果的な災害対応につ いて討論する。	2	10:30 ~11:15	災害対応 ワーク ショップ	事務局	1日目に紹介された災害対 応事例から、課題や教訓を 抽出し、効果的な災害対応 を行う上でのポイントや留意 点について討論する。	2	10:15 ~11:15	災害対応 ワークショップ	事務局	災害対応事例から、課題や 教訓を抽出し、効果的な災 害対応を行う上でのポイント や留意点について討論しつ つ、とりまとめる。	2	10:15 ~11:45	(グループワ ーク) 課題・教訓のと りまとめ	事務局	これまでの学習で得られた 災害対応上の知見やノウハウ 、教訓などを参加者同士の グループによるワークを通 じて抽出・整理し、防災対策 に活かすための方策を検 討・整理する。
	3	11:00 ~11:45				4	11:45 ~12:00	閉講式	事務局	受講修了証を交付し、人的 ネットワークを形成する。	4	12:00 ~12:15	閉講式	事務局	受講修了証を交付する。	4	12:00 ~12:15	閉講式	事務局	・受講証明書交付 ・閉講挨拶
	オ プ ン シ ョ ン ナ ル	13:30 ~14:30	災害対策 本部の事 例調査	長野県	災害対策本部空間配置の 事例として、長野県の考え 方を調査する。	オ プ ン シ ョ ン ナ ル	13:30~	被災地の 自治体にお ける取組	広島県	災害を踏まえた、広島県の 防災・減災に向けた各種取 組みを学ぶ。	オ プ ン シ ョ ン ナ ル	14:00~	被災地の自 治体におけ る取組	熊本県	災害を踏まえた、熊本県の 防災・減災に向けた各種取 組みを学ぶ。	オ プ ン シ ョ ン ナ ル	13:00 ~15:00	現地見学	常総市	・森下児童公園 ・鬼怒川破堤箇所 ・地域交流センター
	定員数	50人				40人				40人				60人						
受講者数	28人				35人				40人				50人							
修了者数	27人				34人				40人				50人							